



東北復興日記

まだまだ



森のようちえん虹の森
代表

清水冬音さん

▶▶ 232

野県や鳥取県など行政も取り組み始めています。

宮城県に住み始めて五年半になります。東日本大震災後に住み慣れた神奈川から宮城に移ったのは、ボランティア活動を通して東北の方々の温かさに触れ、東北の自然の圧倒的なほどの美しさにひかれたから。さらに、大学院で学んでいた「森のようちえん」を仕事にするためでした。

森のようちえん虹の森は二〇一二年、くりこま高原自然学校の新規事業として始まりました。私は、ボランティア活動が縁で立ち上げメンバーとして就職。一年の準備期間を経て一三年から本格的に活動を開始し、一七年に独立しました。

平日は多賀城市の多賀城跡で、通う森のようちえんや親子クラス、休日には仙台市の泉ヶ岳で三歳以上のこどものみのクラス、小学生のクラスなど、さまざまな対象に向けて活動しています。写

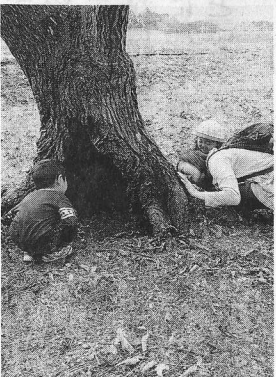
真。東北にはまだ数少ない通う森のようちえんという場を確立すべく、保護者やサポーターと話し考えながら活動している途中です。

幼児期はこれから生きていく自分の土台を育てる時期です。だからこそ、自然の中でさまざまな命に出会い、心も体も揺れ動く時間が必要ではないでしょうか。東北の自然や文化の力を借りながら、こどもたちが持つ力が引き出され、そのままにまっすぐ育つことを願い、森のようちえんという場をつくっています。

自然の中命に出会う

も雨の日も命があふれる自然の中で、こどもたちがさまざまなことを体験し、感じ、考える時間を大切にしている幼児教育、子育ての考え方の一つです。

日本では一九八〇年代に草の根の活動で始まりました。NPO法人「森のようちえん全国ネットワーク連盟」が全国のつながりをつくりながら、幼稚園、保育園、自主保育、子育てサークル、自然学校などさまざまな形で広まり、長



※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。